

ものれーる



武蔵村山市 都市整備部
まちづくり課
042-565-1111(代表)

多摩都市モノレールの市内延伸を目指して

『新青梅街道整備に伴う沿道まちづくりに関する

アンケート調査』結果の概要報告

新青梅街道の拡幅整備については、東京都が平成17年3月に新青梅街道を現行の18mから30mに拡幅する都市計画変更決定の告示をし、さらに基本方針として「環境軸」の考え方をとり入れた整備を行うことを示しています。

市ではこのことに基づき、新青梅街道の整備を進めていくに当たり、市民の皆様が日ごろ考えていること、感じていることをお聞きし、それらのご意見を活用し、今後の整備のあり方の参考とさせていただくため、今年1月に、アンケート調査を実施しました。

アンケートは、性別・職業などを問う項目をはじめ、新青梅街道のことに関して何う項目15の設問からなっています。設問を抜粋し、主なものを掲載します。

アンケート調査の概要

調査対象：新青梅街道沿道50m範囲の住民、土地所有者等
配布数：1292部
回答数：322部
回答率：24.9%



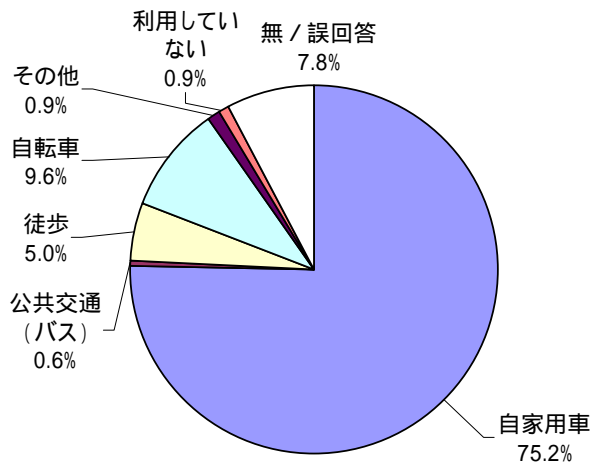
このアンケート調査からいただいた貴重なご意見、ご要望、ご提言をこれからの新青梅街道整備に積極的に取り入れて行きたいと考えております。

最後になりましたが、アンケート調査にご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

1. 新青梅街道の現状について

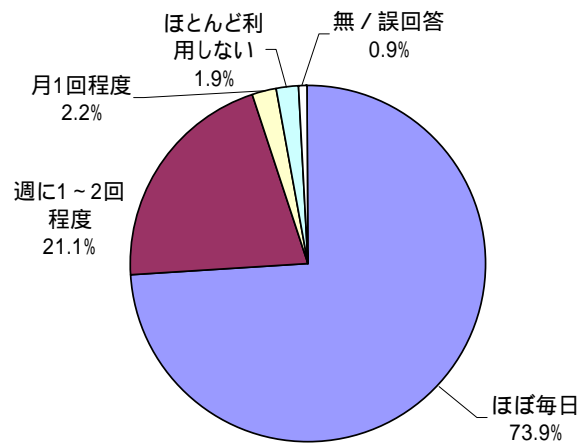
新青梅街道は幹線道路としての機能と生活道路としての機能を併せ持った道路であると考えていることが確認できました。また、新青梅街道及び武蔵村山市の環境について不満を持っている人は少なく、車の騒音や大気汚染問題、狭い車歩道が多い、公共交通が少ない、自転車道の整備が不十分などの課題が多くあがっています。

新青梅街道の利用手段



「自家用車利用」が75%をしめており、次いで「自転車」が10%と高くなっています。

新青梅街道の利用頻度

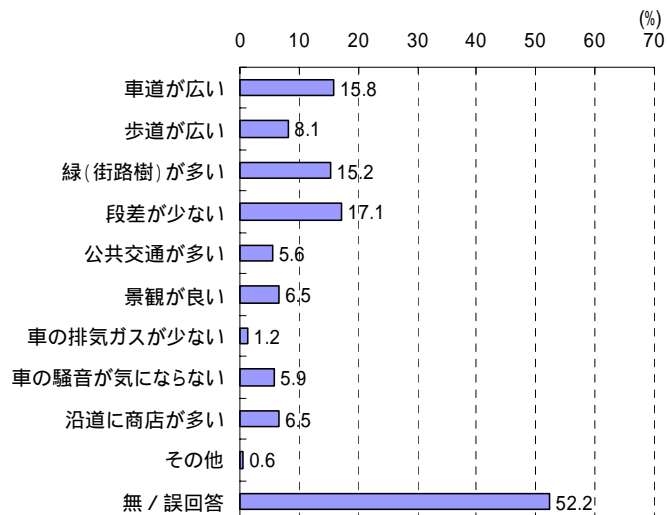


「ほぼ毎日利用している」が約74%、「週に1~2回程度」が21%となっています。

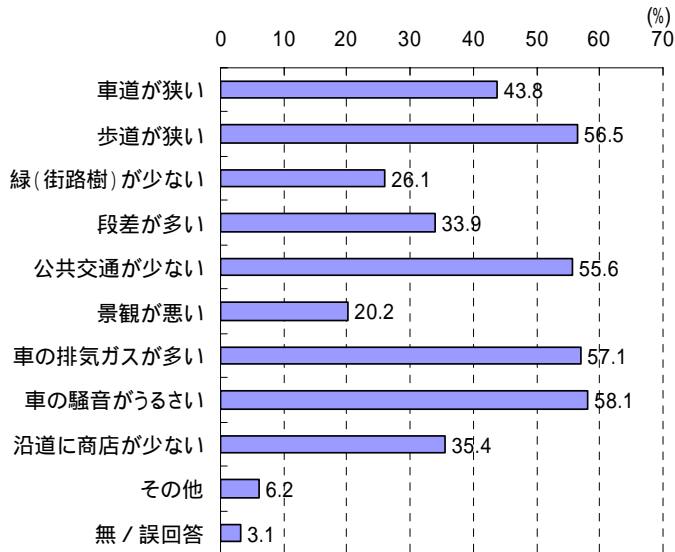
2. 現状の新青梅街道やその沿道周辺の環境

現状の新青梅街道で満足な点

現状の新青梅街道で満足しているとしている項目としての回答が多いのは、「段差が少ない」(17%)、「車道が広い」(16%)、「緑(街路樹)が多い」(15%)となっています。しかし、無回答が52%に達しており、満足する項目がない人が多いと考えられます。



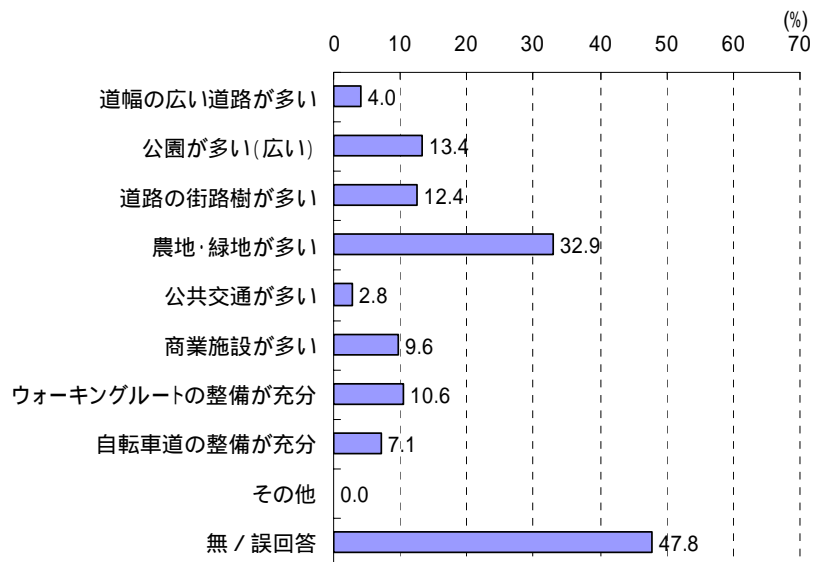
現状の新青梅街道で不満足な点



現状の新青梅街道で不満足な項目として回答が多いのは、「車道・歩道が狭い」、「公共交通が少ない」、「車の排気ガスが多い」、「車の騒音がうるさい」と回答した人が過半数を超えているため、それらの対策が必要であると考えられます。

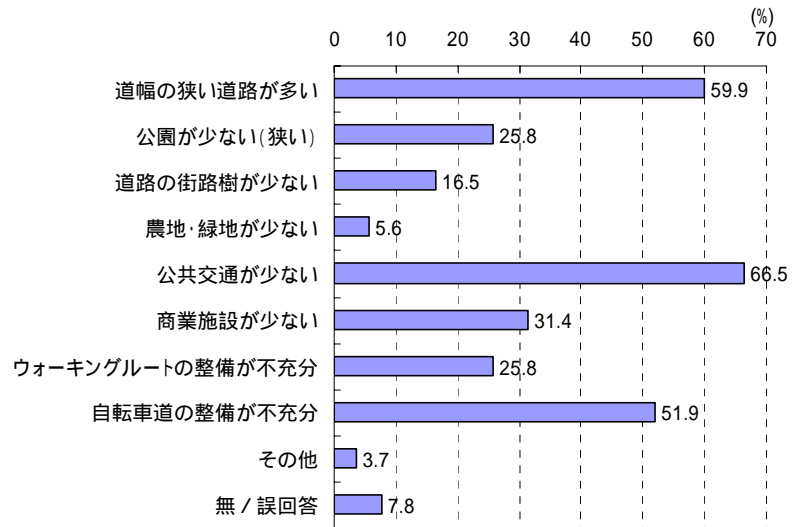
現状の武蔵村山市で満足している点

現状の武蔵村山で満足している項目として多いのは「農地・緑地が多い」(33%)、「公園が多い(広い)」(13%)、「ウォーキングルートの整備が充分」(11%)となっています。しかし、無/誤回答が48%に達しており、満足する項目がない人が多いと考えられます。



現状の武蔵村山市で不満足な点

現状の武蔵村山市で不満足な項目として回答が多いのは、「道幅の狭い道路が多い」、「公共交通が少ない」、「自転車道の整備が不十分」と回答した人が過半数を超え、次いで、「商業施設が少ない」とした人が31%となっており、それらの対策が必要であると考えられます。



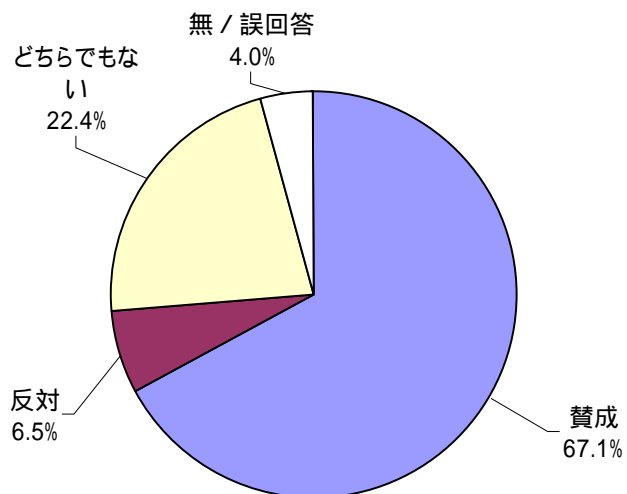
3. 環境軸について

アンケート結果によると環境軸の考え方と、その新青梅街道への適用については多くの方が賛成しています。

近年オープンしたかたくりの湯以外の武蔵村山市の施設を活用するために整備が必要であると回答している人は多く、今後の整備について検討する必要があると考えられます。

新青梅街道への環境軸の適用について

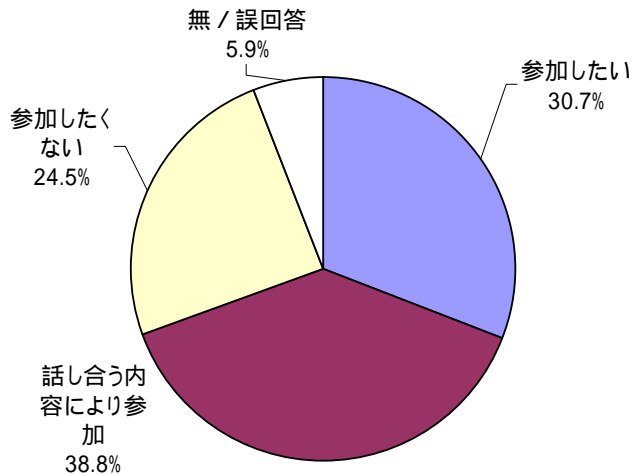
新青梅街道の整備を契機として、新青梅街道沿道等を環境軸の考え方に沿ってまちづくりを行うことについて、67%が賛成しています。



4. まちづくりへの市民参加について

まちづくり会議やボランティア活動等へ参加すると条件付きながら回答している人が多く、関心の高さがわかります。

沿道のまちづくり会議への参加

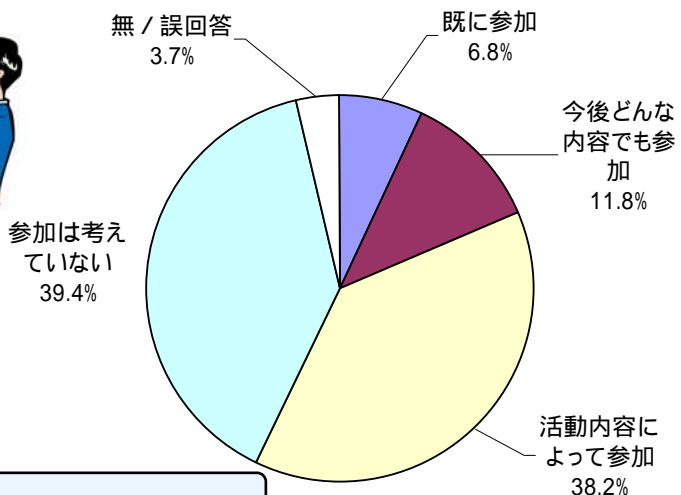


「参加したい」、「話し合う内容により参加」としている人が69%となり、住民がまちづくりに高い関心を持っていることがわかります。

地域のボランティア活動等の市民参加

環境軸を形成していくには、「地域住民の活動による地域環境の向上」や、「住民の環境に対する意識の向上」も重要と考えています。

「既に参加」、「今後どんな内容でも参加」、「活動内容によって参加」としている人が57%であり、ボランティア活動等に参加する意志がある人が多く見られます。



5. その他自由意見（主なもの）

- ・公共交通機関が不足している。
- ・大型商業施設の開業によって渋滞が悪化している。
- ・自転車道の整備や歩道幅員の拡幅が必要である。
- ・騒音と排気ガスやごみの放置などの環境問題があげられている。

調査のまとめ

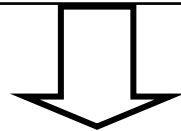
このアンケート調査でわかったことは

新青梅街道

- ・新青梅街道の利用頻度が高く、幹線道路と生活道路の機能を併せ持っていること。
- ・武蔵村山市と新青梅街道に、歩道が狭い、公共交通が少ない、車の騒音や大気汚染などの不満を感じている住民が少なくないこと。

環境軸

- ・環境軸の考え方に過半数以上の住民が賛成しており、条件付きながらも沿道まちづくり会議やボランティアに参加する意志を持っている住民が過半数を超えていること。
- ・多摩開墾、自転車道、横田基地の都市施設については、長期的には整備が必要と感じている住民が多いこと。
- ・沿道の土地利用状況についても調査を実施したところ、住宅が多く、次いで農地が多い状況であり、今後整備の可能性を残していること。



市政への活用に向けて

新青梅街道

武蔵村山市と新青梅街道に対して不満を感じている項目が多いため、新青梅街道拡幅整備と環境軸の形成を図るなかで、住民の生活環境を向上させるために可能な限りこれらの解消を図っていきます。

環境軸

環境軸の考え方に賛成の住民が多いこと、沿道まちづくり会議やボランティアに条件付きながら参加する意志がある住民が多いことが判明したため、今後、新青梅街道拡幅整備と環境軸の形成を契機に、市と住民が一体となったまちづくりを進めたいと考えています。

このアンケート調査は「多摩モノレール関連都市計画変更調査 新青梅街道沿道環境形成指針策定調査」の一環として実施したものです。

調査報告書(本編)は都市整備部まちづくり課窓口で閲覧できます。

調査書(概要版)は今後、武蔵村山市ホームページ上に掲載する予定です。

「ものれーる」に対するご意見・ご感想を是非お寄せください。

Eメールでの投稿 m-murayama@city.musashimurayama.tokyo.jp